名古屋市立大学 SDGsセンター

活動紹介



ずっとイチバン
名市大

名古屋市立大学
NAGOYA CITY UNIVERSITY



持続可能な未来をつくる、
名古屋市立大学SDGsセンター

名古屋市立大学SDGsセンターは、教育、研究成果等の資源の活用や学内外との連携により、2015年に国連サミットで採択されたSDGs（Sustainable Development Goals. 持続可能な開発目標）の達成に向けた活動の推進を目的として、2021年5月に開設されました。学生や教職員を始め、地域、企業、行政といったステークホルダーの皆さまとともにより良い未来をつくるための拠点として活動しています。

活動の3つの柱

啓発

SDGsへの理解を深め、行動につなげる学びや体験の場を提供します。

- イベントの開催や出展
- 啓発グッズの制作・配布

発信

大学で取り組むSDGs活動を広く発信し、行動のきっかけをつくります。

- ウェブなどによる情報発信
- News Letter の発行

連携

地域・企業・行政・大学などと連携し、協働による取り組みを推進します。

- 共催や連携事業の実施
- プラットフォームへの参加

SDGs宣言

本学では、全学一丸となってSDGsのゴール達成に貢献するため、令和5年3月に名古屋市立大学SDGs宣言を公表しました。本学における教育、研究、医療等の全ての活動において意識すべき重要な視点の1つとしてSDGsを位置付けています。

▲SDGs宣言はこちら



名古屋市立大学
「SDGs宣言」

名古屋市立大学は大学憲章で、「市民の付託に応え、真理を探究し、人類の幸福に資する実践的な研究成果を世界に発信する誇り高き「知の創造の拠点」となること」を掲げています。

地球規模での貧困と経済・医療格差の拡大、資源・エネルギーや気候・生態系の持続性への懸念、戦争や自然災害の頻発等、現代の諸問題は複雑に絡み合って深刻化しており、日本国内や本学の設置団体である名古屋市においても様々な課題を抱えています。こうした諸状況に対して、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）は私たちが進むべき社会のあり様を示しています。

名古屋市立大学は、本学が有する研究、教育、医療の成果等の資源を活用し、「SDGs未来都市」に選定された名古屋市と協働しつつ、全学一丸となってSDGsのゴール達成に貢献することを宣言します。

1. 持続可能な社会の実現を目指し、具体的な目標を設定の上、実践します。
2. SDGs達成に向けた積極的な研究を推進するとともに、研究成果を市民・社会に還元します。
3. 現代社会の諸課題を多角的に捉えて対応できる人材を育成し、学内外で多様な学びの機会を提供します。
4. 卓越した高度先進医療を提供するとともに、少子高齢化社会に対応した地域包括ケアを推進します。
5. 名古屋市をはじめとする地域社会や他の諸機関と連携し、SDGsの目標達成に向けた協働や啓発活動を促進します。
6. SDGsに関する取り組みの成果を広く学内外に発信し、共有します。
7. 未来につながるキャンパスづくりと大学運営を行います。

令和5年3月
名古屋市立大学



SDGs推進拠点『SDGsセンター』の歩み

名古屋市はこれまで、愛知県と共に愛・地球博(2005年)やCOP10(2010年)、ESDユネスコ世界会議(2014年)の開催地となるなど、国際的にも持続可能な社会の実現を先導してきました。本学でも人文社会学部において、2013年よりESD(Education for Sustainable Development.持続可能な開発のための教育)を教育の理念に取り入れるなど、社会の要望に応えた教育・研究を積極的に展開してきました。これらの蓄積を基盤として、2021年に全学的な推進拠点「SDGsセンター」が誕生しました。

2021年	2月	SDGs IDEA FORUM 開催(～2023年) 学生のアイデアで名古屋市の課題を解決するプロジェクトを共催 ▶P7
	5月	**SDGsセンター設立**
	6月	内閣府地方創生SDGs官民連携プラットフォーム 加入
	10月	SDGsアンバサダー・SDGsサポーター制度開始 ▶P7
	11月	名古屋市SDGs推進プラットフォーム 加入
2022年	4月	SDGs News Letter 創刊 SDGs達成に貢献する本学の取り組みや研究を学内外へ発信 ▶P5
	8月	カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション 加入 (現：持続可能な社会を共創する大学等コアリション)
2023年	3月	第1回 SDGsセンターシンポジウム開催 以降テーマを変えて毎年開催 ▶P4
		名古屋市立大学「SDGs宣言」発表 ▶P2
	11月	日中韓ユースフォーラムへの参加
2024年	3月	なごや生物多様性シンポジウムへの開催協力 ▶P7
	6月	SDGsを推進する学生サークルとの協働開始 ▶P7
	11月	NCUサステナビリティ・プレゼンアワードを開始 以降テーマを変えて毎年開催 ▶P4
2025年	3月	Human Feedback プロジェクト共催 ▶P9
	9月	愛・地球博20周年記念行事De La MIRAI NAGOYA への出展 ▶P8



SDGsセンターの主な取り組み

SDGsセンターでは全学的な活動の推進を図るとともに、センターが主体となって「啓発」「発信」「連携」を通じたSDGsのゴール達成に向けた取り組みを行っています。

●SDGsセンターシンポジウム

SDGsセンターでは、学生、教職員を始め市民の皆さまとともにSDGsについて考えを深める機会として毎年度「SDGsセンターシンポジウム」を開催しています。

シンポジウムでは、社会的関心が高いテーマを取り上げ、第一線で活躍する研究者や、実務の現場で課題に向き合う専門家を講師に招いて講演を行っていただくほか、本学における研究や教育現場にも着目し、テーマに応じて学びを深める企画を実施しています。

今後も皆さまとともに持続可能な社会づくりを考える機会として、多様な視点からSDGsの実践と課題を掘り下げるシンポジウムを開催する予定です。

【2024年度テーマ:多文化共生】

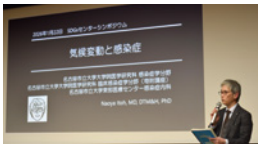
留学生のインタビューから留学生活を送る上での課題を整理し、それを受けて留学生やサポートする学生、教職員が登壇してパネルディスカッションを行いました。



◀シンポジウムの報告はこちら

【2025年度テーマ:プラネタリーヘルス】

基調講演を踏まえ、それぞれ異なる分野で研究を行う教員が、地球規模の俯瞰的な視点から課題に対し、分野の垣根を超えた活発な意見交換を行いました。



◀シンポジウムの報告はこちら

副センター長コメント



看護学研究科
教授 **金子 典代**

2024年度シンポジウムの企画立案を担当

多くの外国籍住民が暮らす名古屋市では、医療現場での言語・文化への対応力が一層求められています。HIV診療に携わる医師・看護師、医療通訳者の養成を行う行政、留学生が一堂に会し、多文化共生に向けた医療のあり方と、留学生とともに学ぶ大学の役割を考える貴重な機会となりました。

●NCUサステナビリティ・プレゼンアワード

SDGsセンター設立以前から本学で実施していた若者世代へのSDGs教育イベントの趣旨を引継ぎ、SDGsセンター主催による高校生・大学生のプレゼンテーション大会「NCUサステナビリティ・プレゼンアワード」を開催しています。

毎年、漢字一文字をテーマに設定し、高校生・大学生が自由な発想のもと、持続可能な社会の実現に向けた課題提起とその解決策を発表します。「発表内容のテーマ適合性・実現性」、「プレゼンテーションのわかりやすさ(表現力)」、「若者目線の独創性」といった観点から審査を行い、優秀者を表彰しています。



また、プレゼンテーションに加え、参加チームの枠を超えたグループワークを全員で実施しています。初対面の参加者との交流を通じて多様な価値観に触れながらテーマについて改めて議論し、意見を取りまとめた上で、その成果を発表します。

副センター長コメント

人間文化研究科
准教授 **曽我 幸代**

本企画はSDGsに関連する成果報告の場の一つですが、発表することが最終目的ではありません。参加者が自らの言葉で語り合う姿から、また聞かれるさまざまな声から、一人ひとりが学びを広げ、深め、持続可能な社会につながる歩みを進めていきます。



●啓発グッズ

SDGsについてより身近に感じてもらえるよう、イベント出展時やシンポジウム開催時に配布するSDGs啓発グッズを制作しています。これまでに、脱プラスチックを目的とした紙ファイルや管理された森林資源から作成した付箋、ワクチンペーパーを使用したメモ帳などを制作してきました。



●SDGs News Letter

本学におけるSDGsの取り組み等を学内外の皆さまに広く知っていただくとともに、大学全体でSDGs達成に向けた活動を推進するために、2022年4月より2ヵ月に1度のペースでSDGs News Letterを発行しています。SDGsセンターが主催するシンポジウムの開催報告のほか、SDGsイベントへのブース出展の様子や地域美化活動の取り組みなどを紹介しています。また、本学のウェブサイト上でも17のゴール別にさまざまな活動を紹介していますので、ぜひご覧ください。



▲SDGs News Letterはこちら

▲ゴール別の活動紹介はこちら

●学外との連携

産学官連携による研修プログラムの実施

環境省の採択事業「教育機関と連携した地域再エネ導入促進及び地域中核人材育成研修」の一貫で、「カーボンニュートラル時代のチェンジ・メーカー養成講座」を開催し、経済学部と人文社会学部の学生9名が参加しました。7日間にわたって開催した本研修プログラムでは、再生可能エネルギーの領域で先進的な取り組みを行っている企業や地域への視察・フィールドワークを通して、将来、探究しながら解決策を立案し、実践できるチェンジ・メーカーへと成長するための手法を学びました。



中高生のSDGs教育への協力

中高生が社会の一員として自ら課題を設定して問題解決力や主体的学習力を育むための「総合的な探求学習」への支援として、依頼のあった中学・高校から生徒を受け入れ、若年層へのSDGsに関する学びの機会を創出しています。





大学中で取り組む、広がる、SDGs

教育　持続可能な社会の実現に目を向け、自ら学び考えられる人材の育成に注力しています

●教養科目「SDGsを考える」



本学では全学部の学生を対象に教養科目「SDGsを考える」を開講しています。SDGsを単なる知識として学ぶだけでなく、環境、健康・福祉、経済、地域社会など多様な課題を自分事として捉えて考える力を養うことを目的としています。学部の枠を超えた幅広い視点に触れながら、未来を切り拓くための主体性と課題解決力を育むことが本授業の大きな特徴です。

●医療系多職種連携教育:基礎

この教育プログラムは本学の医学・薬学・看護学・リハビリ学の1年生を対象に、学部の枠を超えたグループに分かれて地域活動に参加することで、地域の中での課題解決能力やチーム医療の基礎となるコミュニケーション能力を向上させることが目的です。地域や健康のために働く方々を実際にその目で見て体験し、地域医療へ貢献する喜びを通じて、地域社会の未来を支える医療人材を育成しています。

副センター長コメント

医学研究科
教授 **高桑 修**



医療系1年生が学部を越えて地域に出て住民と接し、地域の課題を考えます。健康を守るためには医療だけでなく、一人ひとりの暮らしや地域のつながりへの理解が欠かせません。こうした視点を得ることが医療者の出発点であり、SDGsの理念とも共通すると考えています。

研究　研究者が取り組むあらゆる研究は、私たちの生活と結びついています

●共創まちづくり研究推進事業



本学では、2023年12月に「なごや先端研究開発センター」を設置し、行政課題・地域課題の解決を目指し、名古屋市との協力・連携のもと、2024年から「共創まちづくり研究推進事業」を開始しました。SDGsの目標達成に貢献できるようなテーマを多数採択し、研究を進めています。

①　PTPシートリサイクルを起点とした新しい服薬状況確認システムの開発（大学院薬学研究科臨床薬学分野 講師 堀英生先生）

PTPシートは、錠剤などを包装するプラスチックとアルミニウムからなる資材で、医薬品の品質を保つために不可欠であり、医薬品需要の増加に伴い使用量の増加も見込まれています。本研究では、使用済みPTPシートがリサイクル可能であることを患者様に周知し、どの程度回収できるかを検証するとともに服用後のPTPシートを薬局へ持参していただくことで服薬状況を把握し、その情報を活用した服薬支援の可能性についても検証しました。薬局との連携を通じて、PTPシートの資源循環と服薬管理を両立する新たな仕組みの開発を目指した研究を実施しました。

②　アニマルウェルフェアを目指した大型類人猿の診療ネットワーク構築（大学院医学研究科 特任教授 尾崎康彦先生）

アニマルウェルフェアは、苦痛やストレスの少ない環境で健康に生きられるようにする考え方であり、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」と深く関連しています。本研究では、動物園で飼育されるゴリラやオランウータンなどの大型類人猿に対し、人間ドックに相当する健康診断や診療を導入するとともに、インターネットを活用した遠隔診療システムを構築することで、迅速な診断と早期治療を可能にし、動物の健康管理の向上と福祉の推進を目指した研究を実施しました。台湾・台北市立動物園との国際共同研究も新たに始まり、国内外の動物園・研究機関と連携しながら、大型類人猿の健康管理とアニマルウェルフェアの向上に向けた取り組みを進めています。

学生の取り組み

学生の自由な発想で、持続可能な社会の実現につながる取り組みを実施しています



●学生発のSDGs自動販売機設置

滝子キャンパス2号館入口にCFT(CUP FOR TWO)自動販売機※を愛知県内の大学で初めて設置しました。

この取り組みは、学生へのSDGs活動の啓発に取り組むサークル「サステナカレッジ」に所属する学生が提案したもので、「学生がSDGsを意識し、行動する」ことを目的とした「SDGs意識改革プロジェクト」活動の一環として、学生と大学が協働して実現しました。

(※CFT(CUP FOR TWO)自動販売機とは、売上の一部を貧困・飢餓に苦しむアフリカ・アジアの子どもたちに学校給食提供を目的として寄付することができる自動販売機です)



●ごみ処理を学べるワークショップ教材開発

SDGsアンバサダー※の学生が企画し、子どもたちを対象に「ごみを減らす大切さ」を伝えるワークショップ教材を制作しました。名古屋市が抱えるごみ処理の課題について、その現状と私たちが生活の中でできる取り組みを、オリジナルティッシュ箱の制作を通じて子どもたちへと伝えるワークショップです。名古屋市環境局職員による講義を受けて着想を得たもので、環境局にも監修いただきながら完成させ、その後イベントにブース出展してワークショップを実施しました。

(※SDGsアンバサダー：SDGsセンターと共にSDGsの普及や活動に取り組む本学の学生や団体をアンバサダーに認定しています)

◀SDGsアンバサダーはこちら

名古屋市との連携

名古屋市と連携し、地域課題の解決に取り組んでいます



●学生アイデアが地域を変える課題解決プロジェクト

SDGs IDEA FORUMは、名古屋市にキャンパスを置く大学・短期大学の大学生から柔軟かつ革新的な発想を募集し、大学生のアイデアで地域課題の解決を目指すプロジェクトです。本学と名古屋市が連携して2020年から2023年にかけて開催し、行政だけではなく、市民や企業が大学とともにSDGsに取り組むきっかけ作りに寄与しました。

●名古屋市となごや生物多様性シンポジウムを開催

名古屋市立大学生物多様性研究センターは、名古屋市環境局なごや生物多様性センターと連携し、2021年と2024年に「なごや生物多様性シンポジウム」を共催しました。専門家による希少種の現状報告や、本学研究者による研究成果発表、高校生・大学生のポスター発表を通して、生物多様性の保全と持続可能な地域社会の実現に向けた学びと交流の場を創出しています。

副センター長コメント

理学研究科
教授 **熊澤 慶伯**



生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)を2010年に開催するなど、生物多様性に関する先進的な取り組みを行っている名古屋市と協働し、私たちは生きものの調査・保全活動に科学的に取り組んでいます。

まちに飛び出す、SDGs

大学のキャンパスを飛び出し、名古屋のまちじゅうでSDGsの貢献につながる取り組みを行っています



●中日SDGsフェア（中村区／中区） in ウインクあいち／中日ビル

持続可能な社会の実現に向けて、未来のために何ができるのかを考えるイベントです。学生が地域や社会の抱える課題に対して、日頃から取り組み実践しているSDGs活動について発表し、SDGsを身近に考えていただくきっかけとなりました。



●De La MIRAI NAGOYA（中村区） in ささしまエリア サテライト会場

愛・地球博開催20周年を迎え、愛・地球博の理念と成果を再認識し、次世代へ継承するとともに、名古屋の多彩な魅力を市内外に発信することを目的としたイベントです。SDGsにつながる行動を考えるワークショップを行い、未来の地球のために「自分にできること」を来場者と一緒に考えました。





●オリジナル地域包括ケアドラマを制作（熱田区）

本学芸術工学部の学生が名古屋市熱田区役所と協働して、「いつまでも安心して自分らしく暮らせるまち熱田区を目指して、人と人、人と地域のつながりを大切にしよう」というメッセージを幅広い世代に向けて伝える地域包括ケア推進ドラマを制作しました。





●認知症カフェ（緑区） in 鳴子CHCセンター

地域住民や学生など誰もが気軽に集い、仲間づくりや情報交換をする場です。また、教員が日々の暮らしの中でできる認知症予防や健康維持の方法等について話題提供し、安心して暮らせる地域づくりに寄与しています。

●なごやエシカルフェア（東区） in オアシス21

SDGs達成のための消費行動であるエシカル消費をはじめ消費生活に関するさまざまな知識を学ぶため、消費者団体や事業者団体・学校・行政機関が一体となって開催するイベントです。「ごみ」を「資源」として捉え直す視点を来場者に提供し、エシカル消費に対する意識向上に努めました。







●Human Feedbackプロジェクト（千種区） in 東山動植物園

「人の医療を動物に還元する」をテーマに、本学の教員が東山動物園をはじめ全国各地の動物園と共にイベント開催の活動を続けています。これまで、動物と人との共存をテーマにした講演会を開催してきました。



●高針台中学校での出張授業（名東区）

本学のSDGsアンバサダーを務める学生3名が名古屋市立高針台中学校で出張授業を行いました。授業では、SDGsを自分ごととして捉えてもらうために、SDGsの基本的な考え方や世界・地域が抱える課題について紹介し、自分たちの思いを次の世代へつなぐ良い機会となりました。



●せかいのことばでおはなし会（昭和区） in 名古屋市立鶴舞中央図書館

本学の留学生がそれぞれの母語等で絵本を日本の子どもたちに読み聞かせるイベントです。絵本の朗読以外にも、留学生の出身国の文化のほか、それぞれの言語での数字の数え方や動物の鳴き声を紹介するなどして、小さなお子さんから大人まで参加者みんなで交流し、国際交流活動を推進しています。



●災害時における仮設薬局の設計、救急医療と減災対応をテーマとした体験型授業（瑞穂区・天白区） in 瑞穂消防署本署・中日販売株式会社ショールーム

薬学部と名古屋市瑞穂消防署、中日販売株式会社が連携し、災害時に求められる迅速な対応力を養うため、仮想避難所での仮設薬局の設計に取り組んだほか、救急車や緊急医療機器を見学して消防署の減災対応を学びました。また、災害時に薬局が果たす役割について理解を深めました。



世界で、地域で、評価されるSDGs

持続可能な社会の実現に向けた名古屋市立大学の教育・研究・医療等の活動は、国内外で高い評価を受けており、その成果を可視化する各種ランキング結果にも反映されています。これらは本学の活動に日頃よりご支援くださる皆さまのご協力の賜物です。今後も大学全体で国際社会共通の課題に取り組んでまいります。

●THEサステナビリティインパクトレーティング

本学は、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education(THE)」が発表するTHEサステナビリティインパクトレーティング(旧THEインパクトランキング)に2018年の開始時より参加し、高い評価を受けています。

このランキングは、SDGsに対して各大学がいかに取り組み、社会に影響を与えているかを可視化したものです。

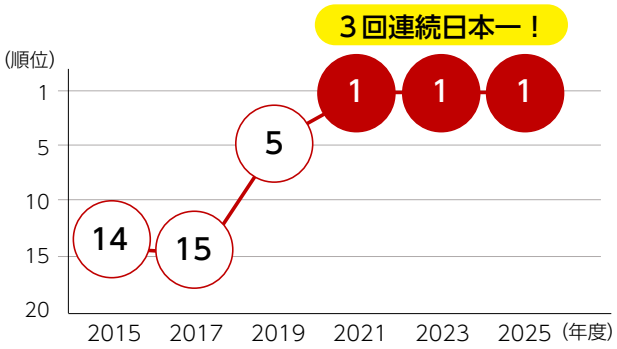


2026年の総合ランキングでは、世界401-600位、国内同率8位となり、8年連続で公立大学1位となっています。SDG3「すべての人に健康と福祉を」において、SDG別のランキングでは、2023年は世界7位(国内1位)となり、2026年は世界同率67位、国内2位(国公立大学1位)と継続して高い評価を受けています。

●大学の地域貢献度ランキング

本学は、日本経済新聞社が実施する「大学の地域貢献度調査」(2021・2023・2025)において、3回連続で全国総合第1位となりました。

このランキングは、全国の国公私立大学を対象に、地域社会にどのような貢献をしているかを探る「地域貢献度」の調査を行い、その回答をもとに、「大学の組織、制度」、「学生・社会人教育」、「企業・行政」、「大学経営・防災」の4つの分野の得点を合計して順位付けしたものです。



これら4つの分野のうち、地域貢献のための組織や制度面の取り組みをみる「大学の組織、制度」と、学生の地域への就職や社会人向け講座開催などの実績をみる「学生・社会人教育」の2分野で1位を獲得し、また、企業・自治体との連携実績などをみる「企業・行政」分野では4位、大学経営や防災の取り組みをみる「経営・防災」では5位となるなど、バランス良く評価されています。特に、医学・薬学・看護学が連携した取り組み、学生と地域住民との交流・連携による健康なまちづくりを目指した活動など、地域連携の企画や全学的な推進を図る多用な社会貢献の取り組みを実施していることが評価されました。



SDGsセンター長からのメッセージ



名古屋市立大学 SDGs センターの活動や今後の展望について林センター長に聞きました。

薬学研究科 特任教授 **林 秀敏**

Q SDGsセンターが目指す役割とは?

A SDGsセンターは、学内の教育・研究・地域貢献の連携を促進し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進するハブとしての役割を担っています。本学には、医学・薬学・経済学・人文社会学・芸術工学・看護学・理学・データサイエンスなど多様な専門分野があります。SDGsセンターでは、こうした学問領域の壁を越えて知見を結集し、地域や企業、自治体、市民の皆さまとともに社会課題の解決に取り組んでいます。

特に都市部が抱える健康・福祉、防災、環境などの課題に対し、「大学だからこそできる貢献」を実践し続けたいと考えています。

Q 名古屋市立大学ならではのSDGsへの強みは?

A 本学の強みは、7学部6病院の総合大学として、幅広い分野の専門家が集まっていることです。

SDGsが掲げる課題は複雑に絡み合っており、一つの専門分野だけでは解決できません。例えば、高齢化や健康格差、防災、脱炭素といった課題は、技術や医療だけでなく、人々の行動や制度、地域コミュニティのあり方まで含めて考える必要があります。

本学は名古屋市をはじめとする地域社会とのつながりを強みとする公立大学です。大学の持つ知を地域へ還元し、地域の課題を研究や教育へと結び付ける循環を生み出すことで、持続可能なまちづくりに貢献していきたいと考えています。

Q SDGs目標年(2030年)以降、地球規模課題の解決にどのように向き合っていくか?

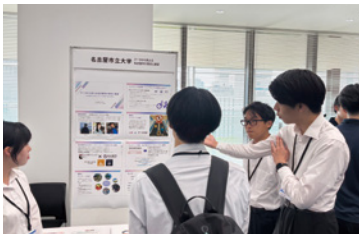
A 2030年はゴールではなく、持続可能な社会づくりに向けた通過点です。気候変動、人口構造の変化、健康格差、災害リスク、デジタル技術の進展など、私たちが向き合うべき課題は2030年以降も続いていきます。

こうした中で大学には、課題を発見し、新たな知を創造し、社会実装へとつなげる役割が期待されています。特に地域に根ざした公立大学である本学は、地域課題の解決と地球規模課題への貢献を両立させる「ローカルからグローバルへ」の視点を大切にしていきたいと考えています。

国連を始め世界中で2030年以降の「SDGs」に代わる概念についても議論が始まっています。本学SDGsセンターもその動向を注視しながら、多様なステークホルダーとの連携を深め、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に貢献していきます。















サポーター企業募集

一緒に未来をつくる、
『SDGsサポーター』企業を
探しています



名古屋市立大学SDGsセンターでは、
SDGsの達成を一緒に目指す
『SDGsサポーター』企業を募集しています。
ご連絡をお待ちしております。

詳細はこちら

お問い合わせ

Nagoya City University
SDGs Center

名古屋市立大学SDGsセンター

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

Tel 052-853-8806

Mail ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/

活動にご支援・ご協力いただいている皆さまに、
心より感謝申し上げます。

発行:2026年10月